

◆ 立川都税事務所長賞 ◆

「税について」

立川市立立川第六中学校 3年 佐藤 碧彩

「税金で安心を買う。」この一文を読んでではじめて税金に興味を持った。税金について知っていることといえば、消費税くらいのものだ。その消費税だって、どういう目的で課されているのかを知らない。知らないまま、そういうものだと思って支払っている。そんな風では、課される税の額が大きくなるにつれて不満を抱くようになるのも当然と言えよう。決して安くはない額を何のために支払っているのか、支払った税金は何に使われるのか、知らないが無駄に支払っているように感じてしまうからだ。

あるとき目にした記事で、増税に対する国民の声としてインタビューを載せていた。何に使われているか明確でないという不信感から、インタビューを受けたうち半分以上の人が増税に反対意見を持っているとの記述があった。税金にプラスのイメージがなかなか結びつかないのは、不信感が原因なのではないかと思い至った。

では税金は何に課されているのかというと、身近なもので公共サービスがある。信号がっていること、警察官が取り締まってくれていること、救急車が無料であることなど。いま当たり前前に思っていることは、税金によって成り立っている。日本ならではの税金として挙げられるのが、入湯税。温泉では利用料金のほかに、入湯税という税金を納める必要がある。施設の衛生環境を整備したり、鉱泉源の保護管理をするのに充てられている。このように、国にとって大切な観光施設を次の世代まで守り繋ぐためにも税金は使われている。また、東日本大震災後に導入された復興税のように、助けが必要な人や場所に正しく助けを施すためのお金でもある。未来の私達が安全に生きられるような場所や制度をつくるために、今、協力してお金を払っている。

冒頭の「税金で安全を買う。」という一文が載った記事によると、例えばスウェーデンにおいて、国民の税負担はかなり重い。ただ、徴収された税がきちんと国民一人ひとりの福祉に使われているという実感がある。そのため国民は「自分に何か問題が起こっても国が守ってくれる」という安心感を持っているとのこと。まさに税金で安全を買う感覚なのだろう。日本とスウェーデンでは税金に対する印象が全く違うとわかる。やはり自分が稼いだお金が何に使われているか知ることが、税金を払うモチベーションに大きく関わるようだ。

私も数年後には新たな税に出会い、支払うようになる。そのときが来たら「自分も社会を作る一員である」という自覚を持って税金を支払えるように、税に詳しくなろうと思う。